

行歯会だより(第9号)

2006年2月(毎月発行)

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

前回より行歯会だよりの新企画『地域紹介 わたしの街自慢!』がスタートしました。地元の名産品や観光スポットから、地域の特徴・歯科事業の紹介などを、全国の行歯会会員でリレー連載していきます。全国を旅した気分になれ、他地域から学ぶアイデアが満載というお得なコーナーです。富山県からのバトンタッチで、長崎県の重政先生です。

「いろいろな長崎県のおはなし」

長崎県福祉保健部国保健康増進課

重政 昭彦

行歯会のみなさんこんにちは!長崎県福祉保健部国保健康増進課健康づくり班の重政です。平成9年から行政勤務して、もうすぐ9年になります。全国の行政の先輩や大学関係者、歯科医師・歯科衛生士のみなさんと情報交換や相談をさせていただき、長崎県で歯科保健医療行政で大きな励みになっています。この誌面をお借りしてあらためてお礼申し上げます。

これを書いている頃は、フッ化物に関する補助事業で知事復活要求を行っているところです。(知事復活要求まで生き残っているのは、平成18年度要求で歯科保健だけでした。)

長崎県は、日本列島の最西端、九州の北西部に位置し、本土は長崎・島原・西彼杵・北松浦の四大半島よりなり、各半島は有明海・橘湾・大村湾により隔絶され、さらに県全土の45.6%にあたる五島列島・壱岐・対馬をはじめとする島々は594で、そのうち74の島に人々が住んでいる全国有数の離島県です。そして、広大な海面を含む地域の南北は約300km、東西は約200kmでほとんどの市町が海に面しており、その自然豊かな長い海岸線により、冬は暖かく夏は涼しい、住みやすい海洋性の気候といわれています。実際仕事で県内の移動は大変で、対馬なんかは飛行機で鹿児島と同じ距離だったり、船で移動も荒れることも多く欠航もよくします。それから、古くから海外に門戸を開いたところであり、その歴史的文化遺産はいまも県内に多く点在し、さらに食などそのバラエティ豊かな文化が、長い歴史の中で培われ、自然豊かで異文化あふれた個性的な文化を築いています。現在、ランタンフェスティバルを開催しており、街並みがどこか中華的なイメージで幻想的な風情に覆われています。今年の4月から10月末まで「長崎さるく博 <http://www.sarukuhaku.com/index.html>」が開催されます。これは日本ではじめてのまち歩き博覧会

として、長崎の街を歩いて、学んで、食べて楽しむイベントです。また県内の動きとしては、平成の大合併で本県も大規模に合併があり、79市町村から23市町になります。

さて、長崎県の歯科保健についての取り組みの中からユニークな事業を簡単に紹介させて頂きたいと思います。

本県では、歯科関係単独での事業では、一般への興味や認識を高めることが困難なため、県民の認識を高め口腔機能や歯科疾患予防へつなげるには、他分野・他業種と提携(連携)した事業展開も必要であると考え、新たな取り組みに着手しました。

まず1つ目は、平成12年度から平成14年度の3年間、産婦人科と歯科と診診連携のあり方について研究した「歯っぴいベビーステム研究事業」です。本事業では、医療機関間の診診連携を推進するため、組織間(長崎県医師会と長崎県歯科医師会)との調整事項や連携についての課題や方法を研究課題とし、診診連携を行うモデル医療機関を通じて、産婦人科のマタニティ教室の中で歯科保健を通じて、受診者への情報提供の充実を図る検証を行いました。



結果の一部ですが、産婦人科で実施しているマタニティ教室で歯科医療機関の連携のもとで、歯科保健について健康指導（情報提供）を実施しましたが、80%以上の受診者が、連携を行うことよってのメリット（必要性、利便性）を感じていることがわかり、追跡調査において、回答者のうち94.6%が教室での「お口の健康教育」に意義を感じ、100%が今後も継続した連携体制を望んでいることがわかり、医療機関間の連携による新たな保健医療サービスの展開に期待する考えが示されました。また、産婦人科医側でも認識が高まり、双方の理解が深まったと思います。（現在市郡単位で連携を行っている）

もう一つ長崎県らしさと一般の人になじみのある県産品を利用して歯科保健をPRしようと平成17年度に「歯なまる県産品普及啓発事業」を実施することになりました。



この事業では、長崎の県産品である「かまぼこ」を活用して、噛むことを通じて、県民へ歯科保健に対する興味を持ってもらい、歯科保健の向上を図ることにしました。そこで、歯科医師会、大学、水産関係者と連携し、新たな啓発を行うことを企画しました。（水産関係者への事前説明等どのようにしたら良いかもノウハウが何もなく、困りました・・・）

また、PRに活用するだけでなく、口腔機能の関係について調査しました。

というのも長崎県産のかまぼこは、硬いことが有名で最近の軟食ブームでは、やや敬遠される可能性があります。長崎県歯科医師会と長崎蒲鉾水産加工業協同組合、長崎県総合水産試験場、長崎大学が連携して、実際に長崎県産のかまぼこは硬いのか、また硬いかまぼこを食べると

どのような効果があるのかの実験を行うことにしました。実際、スーパー等で市販に売ってあるいろいろなかまぼこの硬さを測定の結果、長崎県産のかまぼこが硬いことがわかり、この長崎県産の上位のかまぼこが「すわり」という製法で作られているということで、この「すわりかまぼこ」に「8020 かまぼこ」の称号を与えることに決めました。さらに、長崎大学歯学部ではこれら「8020 かまぼこ」とそれ以外の他県産のかまぼこを使い実際に食べた時の筋肉の動きを計測中でありました。

このように、他分野・他業種と提携した事業は、提携した業界にも動機付けができ、県民への啓発の裾野が広がります。

ただ、「かまぼこ」を活用した啓発事業では、なぜ「かまぼこ」か「いか」ではダメなのか（そういう問題ではないのですが・・・）とかいろいろありましたが、ひとつは「かまぼこ」が「かみごたえ」の指標や、今後介護でのひとつの指標とならないかと考えたからでした。

最後に、今年11月11日（土）ブリックホール（長崎市）で第27回全国歯科保健大会（及び第17回全国歯科保健研修会）を当県で開催する予定となっていますので、ぜひ来県していただき、大会と長崎県の観光を楽しんでください。

[参考]

「8020かまぼこ」の紹介URLです。

<http://www.nda.or.jp/kamuboko/index.html>

<http://www.nda.or.jp/kamuboko/kamaboko.html>

<http://www.nda.or.jp/kamuboko/pr.html>

<http://www.nda.or.jp/kamuboko/senryu.html>

かまぼこ関連情報のURLです。かまぼこには、脳血流が増える他様々な研究があります。どうぞご覧下さい。

<http://www.zenkama.com/>

<http://www.zenkama.com/etc2/kenkyu1-5.html>

<http://www.babycom.gr.jp/kitchen/sfv/essay11.html>

理事のひとりごと (その6)

神奈川県鎌倉保健福祉事務所 堀 正子



行歯会会員の皆様こんにちは 関東 ブロックで理事をさせていただいている堀です。昨年の今ごろは、中村宗達先生や安藤雄一先生、山田善裕先生などを中心として行歯会立ち上げ真っ最中だったことを懐かしく思い出しました。会員も順調に増えつつあり喜ばしい限りです。

行歯会に入って一番驚いたことは、国の情報がいち早く伝わることです。前日の国の会議資料が翌日に配信されるなんて、保健所では考えられないことでした。おかげさまで、保健所の誰よりも早く国の情報を得ることができ、関係職員に情報提供できることは、ちょっと気分がいいですね。先生方、今後ともよろしくお願ひいたします。

また、会員同士の意見交換の場としても有効に機能しており、この行歯会の発想元になった先生方に心から敬意を表する次第です。

ところで、私はこの3月31日で定年退職になります。日本女子衛生短期大学(現湘南短期大学)を卒業して、20歳で神奈川県職員として鎌倉保健所に配属されて以来、40年間にわたり、鎌倉保健所が3回で通算12年間、藤沢保健所、茅ヶ崎保健所、厚木保健所の3か所で合計11年間、後は県庁に3回いきまして、通算17年間を過ごしました。県庁と保健所では仕事のあり方が全く異なっていますが、自分の性格から言えば県庁の仕事が一番あっていたと思います。ただ、仕事の穏やかさからみると、あまりシガラミのないのは保健所かなと思ったりもしています。

ご存知のように、神奈川県域ではかつて全保健所に常勤の歯科医師・歯科衛生士が配置されていた時代があり、歯科保健におけるそれなりの成果をあげてきた経過がありますが、一歩目を転じて市町村を見たとき、県域33市町村で歯科衛生士の常勤配置は3か所しかありません。このことは、長年にわたり、歯科保健は保健所という構図が出来上がってしまったために、地域保健法施行後も他県と比して、市町村に配置が進まない現状があります。実は、数年前に県域保健所で歯科衛生士の早期退職者が2名ありましたが、後任は臨時職員が配置されています。そして、この3月末で私を含めて2名の歯科衛生士が定年退職となり、一応2名とも再任用の希望をだしていますので、4月以降は県庁も含めて13人中4人の歯科衛生士が常勤ではなくなります。このまま行けば、後数年で常勤歯科衛生士が半数になってしまいます。市町村における常勤職員の配置も進まず、県域保健所における常勤職員の確保もままならない状況の中で、保健所の歯科衛生士は今後どのような方向に活路を見出すのでしょうか。介護保険の一部改正に伴う地域支援事業などに携わる歯科衛生士の人材育成や事業評価等、市町村支援も重要な位置を占めると思いますが、県域保健所の歯科衛生士の存在を示せるような画期的な事業展開が図れる日が訪れることを願うばかりです。

それでは皆様、例年にない寒い冬ですので、お身体には十分気をつけてお仕事にお励みください。ごきげんよう

書籍紹介

「口の体操グループゲーム集」 (金原出版、¥3,400+税)

介護予防関連の書籍です。言語聴覚士がまとめた集団で口腔機能向上訓練を楽しく行うためのゲーム集です。事業にすぐ使えるような内容で、おすすめです。詳細は下記 URL(金原出版 HP)を御参照ください。

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp/newbook/2004/0411/75017.html>

お知らせ

・シンポジウムのお知らせ

テーマ:厚生労働科学研究歯周病班・フッ化物応用班
「21世紀における歯科疾患の予防体系の構築」

日 時:平成 18 年 3 月 3 日(金)10:00~17:00

4 日(土) 9:00~16:00

会 場:東京歯科大学水道橋病院血脇記念ホール

東京都千代田区三崎町 2-9-18

TEL:03 - 5275 - 1582(JR 総武線水道橋駅東口)

参加費:無料

連絡先:合同公開シンポジウム事務局

(株)山手情報処理センター TEL:03 - 3949 - 4521

・第23回公衆歯科衛生研究会(ネコの会)のお知らせ

テ - マ:「"つかみ"を科学する」

日 時:平成18年3月5日 日曜日 9時~17時

場 所:兵庫県中央労働センター(神戸市下山手通6-3-28)

特別講演:「つかみ1秒 あと楽勝」いとう伸先生(<http://itoshin.jp/>)

実演販売で50億円稼いだという"いとう伸先生"。

人を引きつけるそのノウハウについてお話いただきます。

主な著書:「つかみ1秒 あと楽勝」「10秒営業術」)

その他の内容:

*グループワーク「あなたの"ツカミ"を教えてね!」

参加者の"ツカミ"を発表しあいます。

*ライブ「禁煙替え歌」 岐阜市開業 稲葉幸二先生

*「ガン病棟滞在記/病院ライフの"つかみ技"」

オフィスナルミ@元気のマルチプランナー

*「AさせたいならBと言え ~授業のプロに学ぶ心を動かす言葉の原則~」

大分大学 住田実先生

*「Happy First!」 - 祝!初めての大人

宮崎県日南市開業 河野秀樹先生

*「世界でいちばん受けたい健康教育 最新ネタ集」

岡山大学 岡崎好秀先生)

*その他

参 加 費:8000円(資料集4000円込み) 完全申し込み制

申し込み方法等詳細は下記アドレス参照です。

<http://leo.or.jp/Dr.okazaki/neko/neko.html>

質問コーナー

日頃の疑問をメーリングリストで質問してみたいけれども気が引けるなあ・・・と思っている方はいませんか?
そのような方のために「行歯会だより」では、「質問コーナー」を設けています。手順は次に示すとおりです。

1. 「質問の内容」と「氏名(所属も明記)」を記載して、下記の「質問受け付け専用アドレス」宛に、メールを送ってください。 gyoushi_kai_q@yahoo.co.jp
2. その後、質問をアドバイザー等に回答していただくように手配します。(質問者の名前は出しません。)
3. 回答ができましたら、「行歯会だより」の「質問コーナー」に Q&A で掲載します。

その際、質問者は「匿名」とします。また、質問者への個別の回答は行いません。

どうぞお気軽に、ご質問ください。お待ちしております!!